

第14期足立区社会教育委員会議第10回定例会会議録

会 議 名	第14期足立区社会教育委員会議第10回定例会会議録
開 催 年 月 日	平成28年6月20日(月)
開 催 場 所	足立区役所本庁舎 南館6階 教育委員会室
開 催 時 間	午後2時開会～午後3時30分閉会
出 欠 状 況	委員現在数 3名 出席委員数 2名 欠席委員数 1名
出 席 者	千葉敬愛短期大学学長 明石 要一 氏 日本体育大学名誉教授 成田 國英 氏
事 務 局	足立区教育委員会教育長 定野 司 足立区教育委員会子ども家庭部長 鳥山 高章 教育委員会事務局 子ども家庭部 青少年課 管理調整係 出席職員 青少年課長 寺島 光大 青少年課管理調整係長 広瀬 弘紀 青少年課青少年教育担当係長 村上 長彦 青少年課体験活動推進担当係長 福井 京子 青少年課管理調整係主事 川原 健斗 青少年課管理調整係主事 渡辺 菜摘 学力定着対策室 就学前教育推進課長 飯塚 尚美
会 議 次 第	別紙のとおり
会議に付した議題	1 関係所管による情報提供・意見交換 ※足立区の幼児教育の取組みについて（就学前教育推進課より） 2 子どもの健康・生活実態調査の分析・検討に向けて ・第2期あだち次世代育成支援行動計画策定のための調査(H21.3)について ・前回からの報告・調査 3 祖父母手帳関連の情報 ・さいたま市祖父母手帳ほか 4 検討事項 ・アウトリーチ型家庭教育の可能性、方法、場 ・家庭教育支援の内容、対象と方法 ・食堂の取組みに関する意見交換 5 その他

★定刻午後2時00分★・会議開会

定野教育長

皆さん、こんにちは。うれしいニュースが入ってきました。4月に小中学校の学力テストを行いました。2年生から全教科ですが、小学校では通過率といいます、国語が全般的に伸びてきていると報告がありました。また、小学校で算数が去年よりも少し落ちているところもありますが順調に伸びてきています。

一番良かったことは、中学校の国数、英語ともに昨年の成績を上回る成績でした。これから分析しますが、テストの成績だけが学力ではありません。ひとまず教育長が変わったから成績が落ちた、などと言われることはないかなと、ほっとしているところです。

本日、議題になっております幼児教育ですが、小中学校のように点数をつけることはありません。ただ、この時期で重要なことは、どこの本を見ても書いてありますが、特に今年の1月、大阪まで出掛けましてオランダのピラミーデという幼児教育が盛んなところですが、その話をある先生から幼児教育の大切さ、オランダで何ができたのかという話を聞きました。オランダは、北海に油田ができてお金に困らず、仕事は移民に任せて、当然就業意欲が低下すれば学習意欲も低下し、これを何とかするために幼児教育から始めようと、国を上げて幼児教育に取り組んできたと説明がありました。

まさに、そこは足立区らしいところもあって、我々は油田もありませんし資源もない。何もないところで、子どもたちのそうした学ぶ力の意欲を幼児のうちから学んでもらうためには、幼児期の教育は非常に重要なことだと思っています。

今日は、足立区の幼児教育の取り組みを聞いていただきます。子どもたちは、どちらかというと隔離して安全であればいいのが保育行政でした。あるいは、幼児教育でも一斉にああしなさい、こうしなさいという教育をやってきました。しかし、そうではなく、意欲を持って自ら進んで何かをすることを引き出す教育、これも小中一貫してそうですが、幼児のうちから必要であると。それを既に待っているものと思っはいけないと考え、今、進めているところです。その成果なども、本日、飯塚課長からお話があると思います。本日はよろしく願いいたします。

司会:事務局寺島課長

ありがとうございました。

続きまして、明石議長よりご挨拶をお願いいたします。

明石議長

土曜日に千葉市の講座で、未来の科学者を育成するプログラムがございました。今年で6回目です。中高校生がフリーで参加できて、定員50名のところに61名参加し、担当は学校教育ではなく生涯学習課がやっています。要するに、未来の科学を担う子どもたちの育成は、学校教育では無理だと思ってきました。

その講座は年間30回のプログラムです。土日と夏休みが多いです。良いと思ったことは、

学校関係ではなくて、例えば、千葉大学や放射線研究所、民間の科学実験を行う場所、また、東京ガスとタイアップ、千葉動物公園の園長さんに来てもらうなど、要するに、学校では学べない、科学的「はてな」について、どうしたら学習できるか。それで、3回目に参加した方が市立千葉高校に行きまして、科学の分野で世界のトップのものをとってきたという事実があります。

これを申し上げたのは、定野教育長がおっしゃったように、まず幼児期、小学校で基礎学力をやって中学生で伸びた。けれども、中高校生を自主的にどう伸ばすか、というプログラムを、学校とは違うところでプラスに向ける。行政は、大変なところのサポートは必要ですが、どうやって伸ばしていくか常に視野において考えてあげるといいかなと、ちょっとおもしろい講座を紹介しました。以上です。

司会:事務局寺島課長

ありがとうございました。先生方につきましては、本日の内容について、事前にご案内をさせていただいたところです。前回の討議の中で、幼児教育についてもお話が出たところですので、本日、討議をさらに充実していくために、学力定着対策室、飯塚就学前教育推進課長も出席させていただいております。

それでは、この後の議事進行につきましては、明石議長にお願いいたします。

明石議長

では、次第に従いまして、足立区の幼児教育の取り組みについて、飯塚課長よりご報告をいただきます。よろしく申し上げます。

飯塚就学前教育推進課長

就学前教育の飯塚です。よろしく申し上げます。

現在、区の就学前教育ということで公立園を中心に現場で指導を行っているところです。私立園向けには研修を企画して、本日も、庁舎ホールにおきまして幼児教育の研修として、私立幼稚園、認証保育所や私立保育園から参加し、2時から開催しているところです。

お手元の資料、足立の教育10、11ページをご覧ください。

就学前教育の充実、目に見える学力ははかることができますが、目に見えない部分、学ぶための構え、意欲や創造力、コミュニケーション能力を培っていくことなど、公立園向けに意欲創造プロジェクト、七つの柱を打ち出して、全ての園で共有して進めているところです。

園の取り組み、四角の囲みをご覧ください。基本的に、保育所保育指針や幼稚園教育要領にのっとった内容を、足立区として取り組むべきことで柱立てを組み直したものです。

愛着形成の確立、読書活動の推進、音楽活動の推進、遊びの環境づくり、食育事業の推進、運動遊びの推進、以上を進めています。

そして、あだち5歳児プログラムについては、就学に向けて5歳児の間に身につけたい三つの柱として、基本的生活習慣、他者とのかかわり、学びのめばえというものを打ち出して、各園で取り入れている状況です。

愛着形成の確立ですが、意欲や創造力を育む、自ら遊び込むためには、愛着形成が一番大事で、公立の園では、担当制の保育を平成25年から始めているところです。

今日は、読書活動と運動遊びを中心に話をしたいと思います。

こちらでは、絵本のおもしろさを味わう経験を積み重ね、絵本好きな子どもを育てる説明をしていますが、公立園で今までの取り組みを簡単にお話したいと思います。

家庭での読書は、親子での読書が一番大切で基本になると思います。しかし、家庭によって差が出てしまう、こういったところを園での取り組みを強化することで、子どもたちが本のおもしろさを味わい、絵本好きな子を育てることで始めています。

平成25年度は、各園で読書の年間活動計画を作成して、小学校と園で同じ絵本を配布しました。平成26年度は、乳幼児期に園で繰り返し読み聞かせてもらった絵本と、小学校の図書館で再会し、手にとって読んで喜びにつなげていく活動をしたところです。

平成28年度は、各園に10万円の予算で、夢が広がるような物語絵本の購入を推奨しているところです。ほかに中央図書館で読書通帳というものを今年つくりましたので、活用を含めて各園での活動のほか、家庭の読書も改めて働きかけているところです。

そして、もう一つの運動ですが、こちらの冊子では運動遊びの推進で、豊かな運動遊びにより体力づくりに取り組みますと説明させていただいております。

運動遊びについては、平成20年から25年までコーディネーショントレーニングを実践していました。その実践報告会をとおして公立園で共通認識して、今後の運動については、コーディネーショントレーニングで学んだ内容を踏まえて、遊びの中で運動を取り入れていく「運動遊び」を展開しています。各園の園長からは、今非常にダイナミックな遊びをしておりまして、ロープにつかまってぶら下がって遊んだり、体幹も鍛えられて大きな怪我が減ってきたと報告を受けている園もあります。

私立園への広がりには、平成26年度に私立園や認可以外の保育施設を対象に、乳幼児期の運動遊びの研修も実施しております。この体力づくりの新たな動きとして、お配りした資料「健やかな子どもの育成に向けて」をご覧ください。こちらは、教育委員会学校教育部、教育指導課を中心に進めておりますが、幼保小中連携で運動遊びを進めていこうということで、今ガイドラインづくりも含めて動き始めました。

この1枚目ですが、足立区の子どもの現状で児童・生徒の体力調査結果をご覧ください。右側の四角い枠の中の考察2のところですが、小学1年生の結果は良好。区立保育園では、平成22年度よりコーディネーショントレーニングや体力測定などの事業に取り組んできた成果である、と分析しているところです。

現在は、自発的な遊びにコーディネーションの要素が入るよう、遊びの環境設定を工夫して運動遊びとして発展させています。しかし、小学生以降になると家庭での過ごし方やゲーム時間が長い、足立区は肥満の子どもが多いなど（課題があるため）、生活習慣を整えきちんと動いてぐっすり眠る、といった健康な生活を送る子どもを目指すために、幼稚園、保育園、小学校、中学校が連携して事業を進めているところです。

去年は、千住地区でモデル園を設定しまして、教職員が連携して委員会を立ち上げ、話し合いを進めてきました。今年度は、モデル園をふやして活動を進めていこうと、平成28年度の組織図でモデル実施が3カ所、一番左が千住地区、真ん中が宮城地区、右が入谷地

区で、保育園、小学校、中学校にかけて体力向上の取り組みを進める組織が立ち上がっています。体力向上推進委員会がその上に職員レベルの組織があり、さらにその上に今後、学識の先生も入れて体力向上推進会議が開かれていく予定です。

事業計画ですが、体力向上ガイドラインに基づく学校の体力向上に資する取り組みの充実で、28年度、体力向上ガイドラインの作成に向けて話し合いを重ねております。

この取り組みの成果を図るため、今後、真ん中のプレイリーダーの育成で、例えば、幼保小中の連携で中学生が小学校に行って遊ぶとか、大学生のボランティアが子どものところに行って遊ぶなど、プレイリーダーの育成を目指して運動遊び体験の仕組みづくりをしていこうと進めているところです。

最後のページですが、今回の体力向上の取り組みに先立ち、現在の子どもたちの体力の調査をすることで、そのモデル実施をしている保育園、小学校、中学校それぞれで、リストバンド型の活動量計で1週間分の活動量をはかり、また、生活リズムの細かいアンケートや食生活のアンケートをしながら、この後介入して、運動遊びを仕掛けた結果、その後子どもたちの活動量がどう変わるか、秋にもう一度調査するなど、モデル的な動きが始まっているところです。こちら、幼保小中連携による運動の取り組みで、新しいものが始まりましたのでご紹介させていただきました。

そして、先ほどの読書についてですが、先ほど公立園の取り組みで、それぞれの園で家庭に任せるのではなく、園で子どもたちに絵本好きにしていきたいと思いますという話で始まっていますが、そのほかにも、足立区では、10年以上進めてきましたが、幼保小連携活動の中で各地域での読書の取り組みが始まっています。幼保小連携ブロック活動で、足立区を13ブロックに分けて、それぞれ活動をしているところです。

この中で地域ごとに、校長や保育園、幼稚園の先生とテーマを決めて、読書に取り組んでいるところです。先ほどは、公立園だけでしたが、こちらは私立の幼稚園や保育園、みんなで取り組んでいる内容で、例えば、千住地区の第1ブロックでは、読書活動の指標をつくろうと、主体、量または頻度、本の選定、表現と四つの観点から目標を定めて、一人一人の園児、児童の状況を捉えたり、支援策を考えていく参考としています。

10ブロックでは、学校、幼稚園、保育園の読み聞かせ交流を通して、それぞれの現状を理解して、子どもたちの読書への意欲を高めるテーマに学校や園とで相互理解して、絵本に触れる機会を設けることで読書への意欲につながったとの発言もされています。

私からは、公立園の取り組みと幼保小の連携の中での読書活動や運動遊びについて、説明させていただきました。以上です。

明石議長

ありがとうございました。足立区は色々なことをやっていますがご質問ありますか。

私からは、非常におもしろいと思ったのは、今、スマートフォンでコーディネーショントレーニングを調べましたが、東ドイツで始まったとかスポーツ養成、トップアスリート育成として始まっている。それを否定しませんが、体力調査で結果が悪いからとか、色々なことをやっていますが、言いたいのは裾野の広い、体幹遊びですが、スポーツ全体の前の基礎的なケンパーやお馬さんごっこ、おしくらまんじゅうなど、昔の遊び、運動よ

りも遊びを通して体幹能力を伸ばしていく。

22年度からコーディネーションを導入して、今日の結果を見ると、今の1年生が伸びたのはコーディネーションをやったからというけれども、平成22年から導入しているのならば、2年、3年のときから伸びてないと説明がつかない。だから5年やってきているということは、今の4年生のデータ上に、いつ導入していつ結果が出たかを、もっと付け合わせて検証していただけると良いのでは。

すぐに結果は難しいけれど、説明するときのポイントとして分かりやすいのが1点。もう1点、トップアスリートを育成するような、私は専門ではないけれども基礎的なコーディネーションを一般の保育所で導入することに対して、内部でどういう検討をされたのか。学力が低い、運動能力が低いから即効で上げるためにやってきたのか。新しい手法だからいいのかを、決めていただけるといいと思いました。

ということは、別件ですが、今の宮城県が東日本大震災の復興事業で、ジュニアのトップアスリートを育成する講座をソフトバンクの補助金をもらってやっています。それは完全にその選抜をして、将来のオリンピック選手育成をやるためにやっています。28の種目を用意して、私はその効果測定もやっていますがそれはそれで意味があります。コーディネーションをやってきて、27年度のデータがとれたというのは、内部でどういうご検討されているのでしょうか。

飯塚就学前教育推進課長

コーディネーションを1日何十分と決めてトレーニングやるのは、25年度までで終わっています。その動きを踏まえて、運動遊びを取り入れています。

25年度、コーディネーションを徹底的に取り組むことは1度終わりにして、今後は、運動遊びとして、子どもたちが意欲的に遊んだ中で獲得していく体の動きが大事ということで、公立園などの研修会の中で、全員でそういう共通認識をしました。

コーディネーションを1日何分という設定ではなく、運動遊びにチェンジして既に2年ぐらい実践しています。今度の小学校1年生は、その当時、2年ぐらい前までは保育園でコーディネーションをやっていたかなど。一応動きは押さえながら遊びに取り組む考えがあったので、そういった意味でここに表現を入れてみたところです。

定野教育長

足立区のコーディネーションを説明する必要がありますが、我々はトップアスリートのトレーニングをやってきたわけではないので、特に小学校から始まったのは、リズム遊びなどが中心でアスリートのためではありません。

手法として取り入れていますけれども、これまで運動に積極的にかかわれなかった子どもをどうやって引き込むか、ということで決してアスリート養成ではありません。

明石議長

分かりました。足立区の貴重なデータであり、要するに千葉県や千葉市は、全国調査では高く東京都が一番低いです。東京都は低いから都の教育委員会が、1日に1万5千歩歩

きましようとガイドラインを決めている。それが小学生は出来ていない。1万1千歩しか歩いていない。その次にやったのは、1日の休み時間を60分以上保障しようということをやっているところがある。

例えば、保育所で運動遊びを定期的に何分間取り入れているかとか、ガイドラインがあるのか、ないのか。一園長が頑張る園ではなく、全体はどうしてきたか説明を受けると分かりやすい。

アメリカは、体育という教科は少なく、それで運動がないから30分以上は学校で運動しましょうかと、ある州はガイドラインを設けているようです。そうすれば、もっと伸びると感じました。

定野教育長

今回始めた運動量調査がありますが、このリストバンドを1週間つけておくと、どれだけ睡眠をとったか、どれだけ歩いたかなど計測できます。これを幼稚園、保育園、小学校、中学校に抽出していただいて計測します。

今春やって、夏の間どれくらい運動させるか、小学校や保育園でやってみて、その結果がどうやって表れるかと、今回の科学的調査です。

明石議長

その説明してもらえますか。リストバンドというのは、何ができるのですか。

飯塚就学前教育推進課長

主には運動量です。子どもたちが走ったり遊んでいる活動量、睡眠時間も測れます。

明石議長

食事のカロリーは出ないのですか。値段は、いくらですか。

飯塚就学前教育推進課長

カロリーは測れません。ただ、食生活習慣の調査も行っています。

定野教育長

測定器の値段は約1万円です。100個、購入しました。今日は、4,964歩歩いています。時計機能もありますので、いつ動いていたか、いつ寝ていたかが分かります。

明石議長

できたら100個のモデルをつくってみてはどうか。1週間ごとに回していけばいい。

飯塚就学前教育推進課長

保育園で幼児、5歳児を1週間の間に計測します。この子たちがこれから大きくなっていく段階の調査ができます。

明石議長

こうした客観的調査と意識調査があります。それを合わせていくのはいかがか。

実は、私、小学校5年生にインスタントカメラを渡して、朝ごはん何を食べたかと撮ってもらいました。月曜から金曜まで。親は猛反対、何でやるのかと。とにかくお願いして、110名、その写真を5日間で分析しました。意識調査で何時に寝たか、起きたか、テレビ視聴時間から友達が多いか少ないか、学校好きか、などの意識を調べました。そうした調査を行いました。このリストバンドによる調査は良い。

客観的データと意識調査を分析してくれると、貴重なデータになります。結論を言いますと、5日間のうちに米飯を4回以上食べた方が25%、少ないです。5日間のうちにパン食が4割です。

定野教育長

朝ですか。

明石議長

朝です。あとはミックスです。早寝早起きしている方のところは米飯が多い。遅く起きる人はパン食が多い。

定野教育長

調理に時間がかかるからでしょうか。朝、ご飯を炊かなくてはいけない。

明石議長

結論を言わせていただいたかったのは、おうちの方の段取り文化というか。教育長がおっしゃるように米飯を炊くところは、寝る前に朝ごはんのメニューを考えて寝る。タイマーをスイッチして寝る。段取りがあります。パンは、冷蔵庫あけて残っているもの。

定野教育長

この間も保育園の園長さんに聞いたら、お皿洗うのが大変だから菓子パンを出す。ちぎって食べればいいと。朝食抜きよりはいいと思いますが。愛着形成からしたらどうかというのがあります。

明石議長

結果としてパン食はおかずが少なく、米飯は多い傾向にある。米飯は手間暇がかかる。それを10年間そうやって来ているから意識調査で差が出ます。

それから、先ほどの読書も非常によくやってくれています。例えば、九州鹿児島では、夕読み、朝読みという地域運動をやっています。朝と夕は有線放送で流します。子どもとお孫さんで、お互い決めた絵本を読みます。こういう運動も、一つの家庭だけに任せたら色々な家庭があるので、おじいちゃん、おばあちゃんの力を借りて、普段は、おじいちゃん、おばあちゃんと夕読み、朝読みをする。

これを運動として起こしてくれると、多くのところで家庭で寝る前に読んでくれると思います。しかし、そうでない家庭もある。

定野教育長

足立区では、おじいちゃん、おばあちゃんと一緒に住んでいる方は少ないです。それから、読み聞かせを家庭でやっている方も多くないと思います。親の読書習慣がない家庭は、子供の読書習慣がないのでは。ですから、そのような習慣がない親にお願いしてもご自身が読まないで、子どもにも読ませないと思います。

飯塚就学前教育推進課長

だからこそ園にいる間は、格差がつかないように、子どもたちが絵本を好きになるように、タイムリーな絵本を揃えたりして各クラス工夫しています。

定野教育長

園では、お母さんに本を貸し出ししています。でも、あまり借りていない。

飯塚就学前教育推進課長

人によって違うところがあります。

鳥山子ども家庭部長

特定の人になってしまうのですね。

定野教育長

お金がないから絵本が買えないという話とは違うと思います。本があっても、読ませない、読ませる習慣がない。読ませる時間がないのかもしれない。

鳥山子ども家庭部長

園によっては、そのクラスの担任が今月の推薦絵本を出して回したりして工夫はしていますが、親に読書習慣がないとなかなか定着しません。

明石議長

そこでお願ひしたいのは、千葉市の場合は小学校、中学校、例えば、小学校113校あって、全ての小学校に週3回読書支援員を派遣します。学校図書館で新刊分を紹介すると、結果的に子どもたちがそこを利用する。

毎日新聞の11月の読書調査では、小学生は全国平均で1月に9冊読みますが、千葉市は19冊読む。中学2年生は、平均は4冊ですが千葉市は9冊です。

それでお願ひしたいのは、行政が一生懸命働きかけている幼稚園や保育園は、しっかりと絵本の読み聞かせをやっていきます。一番弱いのは、自分は子どもにできるけれども、連絡帳を通してこうやってお母さん読むといいよと、お母さんを啓発するようなことができ

ていません。自分たちも、幼稚園、保育所でも一生懸命読んであげると思います。

すると、足立区の政策として、幼児のスーパーバイザーというか、2人か3人ぐらいのソフトな方が、幼稚園、保育所に行って、先生方、このようにやると親子の読書習慣が進みます、というスーパーバイザー的な役割を考えてくれると、保育所、幼稚園でも、家でもやってくれるといい。

教師は忙しいですよ、連絡帳書くのに精いっぱいですから、保育士さんも幼稚園の先生も。スーパーバイザー2、3人を循環させることで、足立区バージョンとして何とか家庭に入りたいのです。

定野教育長

足立区では、中学校全校に図書館支援員を配置しています。かなり優秀な方で、読書習慣や図書の紹介など功績は増えています。ただ、家庭まで踏み込めていないのと、小学校のときに読んでいないと中学でも読まない。読む子は読む、読まない子は読まないという二極化が激しいので、小学校に手を入れなくてはいけない。

小学校は今、図書室のボランティアとしてお母さん方を入れていますが。それも極端で、私が視察するところは、みんなよくやっている。実は、行っていないところでは、何も手を入れていないところでこの格差が激しい。区長とも手を入れるべきと話をしています。

読書のための図書館支援員は、先生おっしゃるように色々やれることがあると思います。ここは非常に重要になってくると思います。

明石議長

足立は食育で成果を挙げています。お願いしたいのは、幼児の食育についてです。

幼児の食育では幼稚園が弱いと考えています。保育所は専門家がいて色々やってくれます。食育コンテストのグループの委員をやっていますが、全国から募集すると、保育所は9割、幼稚園は1割しか投稿していません。要するに、幼稚園の食育は、こうしたデータから極めて少ないことが分かります。

そうすると年配の方は、おふくろの味、家庭の味と言う。今はもうそういう時代ではない。私は、家庭の食卓ではなくて地域の食卓という発想がとれないかと。地域の食卓というのは、言うならば保育所で非常に優秀な方が郷土料理など、例えば、千葉でいうと太巻き寿司など、月1回出すと給食おいしかった、となる。

お母さんたちもその場に来てもらい、こういうのがあると紹介すれば、おいしかったので家庭でつくるケースもあります。要するに、子どもがいい体験をした話をすると、お母さんもそうと言う。お母さんだけに任せると教育長がおっしゃるように、格差があって、やらないお母さんはやらない。だから、保育所の食体験で親子一緒につくって、先生方や栄養士さんが教えてあげるといい。すなわち、足立区の地域の食卓を保育所で作っていただき、それを家庭にお返しをするという考えです。

定野教育長

おいしい給食を始めて給食のレシピ本を出して、8万5千部ぐらい売れています。全国

の方に、足立区の給食のメニューが行き渡っているのですが、学校によっては、お母さん方が非常に注目して、今日はどんなものが出たというコミュニケーションがとれているところもあります。

しかし、全体に行き渡っているわけではないので、そういった意味では、小中学校全校に栄養士がいますから、これも食育のキーマンです。先生がおっしゃるように、子どもたちだけではなくて、親にも働きかけていくべきです。

明石議長

足立の食卓は、家庭よりも足立区からの発信で家庭に。要するに、基本はいかに家庭に入っていくことができるか。足立区の給食はおいしいのですから。

飯塚就学前教育推進課長

幼保小連携箇所の中で、子どもたちが小学校に行って、給食体験をやっているところがあるので、そういったところで幼稚園が関与できないか。

定野教育長

幼稚園は、お弁当の時代が続いて、ここで初めてというか、やっと方向転換が始まったばかりですからなかなか難しい。

成田委員

色々とお話を伺い、体力調査の結果は深刻です。中学生にかかわる予備軍の小学校もこうですから。体力調査の結果は、分かりませんが、学校教員、あるいは保護者の方々には、結果について周知徹底しているのですか。

飯塚就学前教育推進課長

学校からですか。

成田委員

学校関係、教員一人一人がこれを自覚しているかどうかです。

明石議長

教員はわかっています。

その学校が、保護者に対しどれだけ情報を発しているか。教師はみんな知っています。教育委員会が伝えています。

定野教育長

中学校でよく言われるのは、平均をとってしまうところですが、実は、運動を行っている子はやっている。やっていない子はやっていない、この差の二極化は非常に激しい。

成田委員

それからもう一つ。今、読書についてお話になりました。学校の教員が、本を読んでいるのかどうか。

定野教育長

読んでいない教員も多いのではないかと思います。

成田委員

教員こそ読んでいると思います。例えば、小学校の場合だったら、朝の会でも帰りの会でも、学級担任が自由になる時間がありますから、先生は、「こんな本を読んでいる、この前はこの本を読んだ。君たち、お父さん、お母さんも読んでいるかな」というような話をしているか。今読んでいる本の話、夢を、あるいは、まず先生が本を読むお手本を子ども前で示すことを、足立区の先生方がしているのかどうか。

また、校長先生が、例えば朝礼、朝会で全校の子どもを集めて。毎回読書の話はできませんが月に1回でいい。時には、「校長先生はこんな本を読んでいます、先生は、家でこんな本を読んでいる、皆さんの家ではどうですか」という問いかけをしてはどうか。

家庭で保護者が読んでいない、それはある。けれどもそれに火をつけるのは教員だと思います。校長会等で周知徹底しながら、まず学級の中で小学校でも中学校でも機会あるごとに担任として、「今、こんな本を読んでいる。先生はこんな考え方が生まれている」、というような夢を子どもの前で語る雰囲気、足立区全体として盛り上げていくと少しは変わってくるのではないのでしょうか。

僕は今、日本学校図書館学会の顧問をしていますけれども、日本学校図書館学会でも教育長さんのお話を伺って、幼児教育、幼児の絵本を読むことについて、研究してみなさい、と注文をつけたところです。学校を上げて、まず教師が先導的にやっていくような、火をつけてみるのも必要と思いました。

定野教育長

学力定着の中に教科指導専門員といって、高校の先生も多くいらっしゃって専門部会をつくりました。そして、本が好きな子どもたちを増やそうと「国語科通信」で本の紹介をしています。読みましたか。毎号、本の大切さを書いて、読書はこんなにすばらしいものと、毎号書いています。ぜひ読んでください。

明石議長

ありがとうございました。では、先に進ませてもらいます。

議題2です。前回の馬場課長からご報告いただきました子どもの健康・生活実態調査について、読み込んできていただいたと思いますので、その前に、まず再度村上係長から説明してもらい議論を深めていきます。

村上青少年教育担当係長

前回、子どもの健康・生活実態調査の説明がありました。少し前になりますが、第2期、あだち次世代育成支援行動計画策定のためのアンケート調査が、かなり関連した方向がありました。これについてご紹介し、見比べ分析をしていただきます。

一つが概要版です。全体調査の人数や分類についてまとめたものです。今回特に関係する部分は、就学前児童の保護者調査、就学児童の小学1年から3年生の保護者調査、小学校4年から6年生調査もあります。主に1、2のところが今回の調査との比較、見比べていただくのに役に立つかと用意いたしました。

前回は、次世代育成支援行動計画、どう立てるのか参考にするためにつくりましたが、子育てのしやすさ、町に関する質問をはじめ、子育てに関して悩んでいること、どう過ごしているかなど調査をしました。

アンケート調査報告書がお手元にあるかと思いますが、19ページが同居家族の調査です。52ページは、子どもの日常生活で食生活の習慣、朝食摂取状況、就学前の場合は、毎日食べている、が90.7%。就学児童で94.2%が毎日食べているという数値が出ております。

53ページの世帯構成別では、朝食の摂取状況が全体とそれから夫婦と子どもの世帯、ひとり親世帯、3世代世帯、その他、世帯による違いが出ております。ひとり親世帯ですと、毎日というのが少し減ってきたり、構成によつての違いが出ております。

それから、孤食の状況は54ページです。孤食がある16.1%、無いが83.4%。これは学年が上がると、もう少し上がってくる状況にあります。55ページでは、1カ月当たりの孤食の回数、1から4回が37.2%。20回以上が22.6%あります。孤食が多い、孤食の場合も回数が比較的多いことが見てとれます。

56ページが、子どもの調理手伝いで、子どもと一緒に調理をする、あるいは食事の準備や後片づけを手伝うでは、この調査では、比較的一緒に調理をしたり手伝うという回答です。

起床時間は、就学によって違ってきております。就学前は、午前8時までに起床する保護者が多いです。起床時間は、子どもの生活パターンで違う、ということもあると思います。子どもの年齢別は57ページです。

年齢別で起床時間が出ていますが、小さいうちは午前6時、7時までが少なく、午前8時ぐらいが多いです。午前7時ぐらいが、徐々に3歳、4歳、5歳になって増えてきます。就寝時間は、就学前から就学になるに従って、時間が遅くなってきています。

59ページでは、世帯別の構成による就寝時間の違いが出ています。今回の調査結果と見比べながら、ご意見をいただきたいと存じます。

明石議長

ありがとうございました。

概要版でお聞きします。調査の種類で、②は就学児童の1年から3年生の保護者の調査をしています。それなのに、10ページでは、子育ての楽しさを見たら、小学4年から6年生の保護者では、楽しいが93.7%とあります。要するに、このデータはどう読めばいいか。

中身に入る前に1年から3年生の子どもを持つ方で、たまたま4年から6年生を持つ家

庭もいると思いますが、そのサンプルの対象と聞いた、10ページの子育ての楽しさというのは、中学生を持っている親ではないと思いますが。

村上青少年教育担当係長

これは、この中学生の調査が学校を通して家庭に配っています。その中で保護者に回答していただいている部分があり、そこでの数値です。

明石議長

それをはっきり明示してほしい。例えば、中学生で1,454名を対象としている。その中で、親が何パーセント答えたかが出てこない。そうしないと、①と②の回収率が53%なので約半分の親は回答していない。

こちらは、悉皆調査に近いです。学校を通すとみんなサンプルがあります。そのように見ると、50%だけ答えた親のデータの見方と学校とやった場合、これは76%の回答率で、よく出て当たり前。言いたいのは、調査方法をはっきり明示しないと、データがひとり歩きして怖い。注意する必要があります。

村上青少年教育担当係長

この調査は、青少年課が直接実施したものではなくかなり前に、平成20年に調査をしたものです。それを引っ張ってきている関係で、私が調査内容について直接コメントできる立場ではなかったものですから。

明石議長

7年ほど前ですね。例えば、高校生調査と青年調査があります。

びっくりしたのは、概要版で11ページです。今、一番日本が関心を持っている自己肯定感で、高校生は良くわかります。例えば、「自分には何かができる」、などの自己肯定感の質問で、35から40%の回答があつて高校生より青年が高い。よく見たら、青年のサンプルは288名、回収率は24%。ということは、75%は回収していないことになる。

そうすると、高校生は自尊感情が低い、青年は高くなっていくというのは、普通なら、眉唾物と疑いますが、疑ったことを書くと、えっ？となる。要するに、4分の1しか答えていない。それで、調べてほしいのは、この保護者の5割と青年の24%というのは、ほかの区とか調査会社の経験則で、足立区は保護者の5割はいいのか。青年期の24%は、低い感じがしますが、これで普通なのか。普通の回収率ならば他と比較しやすいのです。その辺が気になりました。

ということは、このデータを見たら子育てが楽しいし、足立区は遊びがたくさんあつてと、はっきりこう言っています。前回のこれは相当か、こちらのほうがよりセグメントというか、細かく分析が出てリアリティがあつて、今日の資料を見たらずれが在り過ぎ、という結果になってしまうのでは。調査というのは何のための調査か、ということに注意して見ていかないと難しいと感じました。

これを見て注文はないです。日本の問題は、自然体験させたいと思っているけれども、

親は一緒に行っていない、子どもに本気で勧めていない。全部学校にお願いしている。それがこの前の、先週の4カ国の高校生の安全に対する調査に出ましたが。だからアメリカは、すごく野外体験をしますが、日本と韓国は殆どしない。みんな屋内で活動している、というのが一つの問題だと思います。それから、放課後子ども教室は、どうなってきていますか。

鳥山子ども家庭部長

69校中、ほとんど週5日は実施していると思います。

寺島青少年課長

あと、数校できていないところがあります。

明石議長

ここを見ると、小学4年生以降で利用したいと思っています。1・2・3年生は、放課後をよく使っています。4年生以降は減ってきています。しかし、気持ちは高いけども、実際その学年によって放課後子ども教室がどうなっているのか。前回、教育委員と私と指導員の講師がいましたけれども4年生以上が悩んでいる。データとしてはいい。使いたい意思はあるが、実際にどれだけ使っているかが出てきていない。

足立区も問題は山積していますが、相談相手はパートナーか自分の親です。パートナーでも7割しかない。3割は相談相手がいない。そうすると、仕組みとして子育てに悩むとか、いろいろな方々の悩み解決をどういう機関が行うか、エージェントを用意すれば解決できるかと行政として考えていく必要がある。要するに、ひとりぼっちの正に孤食の食べ方もあるけれども、孤立した親たちがいる。孤立した親たちをどうやったらネットワークしていくことができるかを、これからの社会教育行政は必要だと思います。

SNSやLINEでつくるのか、それを安直じゃなくある活動を通して、ネットでも行けます、とか。そのような情報を発信してあげる。また、大きな情報を流しているけれども、足立区に関する情報をどこでアクセスすればいいのか。一番いいのは、駅の近くの子ども・子育てルームで人間関係、ネットをつくってとか、そこで言えないことは、専門機関で相談すればいい、などです。

定野教育長

今、子育てサロンがあり、子育て中の親が、例えば乳幼児の親が多いのですが、問題は小、中学校になったときにネットワークが壊れてしまうことです。親も忙しくなって、子どもは、学童保育に預けてと、そういう場合どうするかを考えなければいけない。

以前は、PTA活動など浮かんできたと思いますが、PTAにも出てこなくなるころが大きな問題です。それをどうするのか。

明石議長

例えば、千葉市の場合、3・4年生を持って軽度の発達障がいを含めて、特別支援学級

の設置について要望を出しても、なかなかつくってくれないところがあります。

中学生の悩みとしては、普通学級にいても色々とトラブルを起こした、特別支援学級に入れたほうが良いと言うけれども、誰に相談していいのかわからない。

基本的には、放課後の遊び方の問題と、学校教育における軽度発達障がい約6%、その方々の悩みをどうするのか。いじめと不登校、そういう困難を抱えた子どもたちを持つ保護者に対するサポートをどうしていくのがだと思えます。

定野教育長

足立区では、スクールソーシャルワーカーを入れて、軽度だとスクールカウンセラーで対応する。では、その予備軍をどうするかは、親御さんたちが、先輩の親がサポートするメンターという制度について検討していくことになっています。

いろいろと考えなくてはいけないことも多々ありますが、これスタートさせたい。

明石議長

その取組みは、先端をいっています。

定野教育長

どのような結果ができるか分かりませんが、色々やってみたいと思います。特に、肢体不自由、知的障がいの方については各種グループがあり、家族も含めてどうしていくかは大きな課題です。それらに対応してくメンターという制度を、これからやっていこうと、この間の校長会でその話をしました。現在、ソーシャルワーカーは9名います。来年は6増したいと思っています。

明石議長

それはいいです。

定野教育長

ソーシャルワーカーは、一人で7、8校担当しています。今、105校のうち52校が対象ですから倍増しないと。全校では、要らない学校もあります。必要なところから重点的に配置して、52校を9人で回しています。

あと6人ぐらい増員したいと思います。養成も大変ですから3人のスーパーバイザーがいて、そこに6人を入れ教育しながら回していこうという考えです。

明石議長

それは、非常に安心しました。すごいと思います。お金がかかることですが、やはり仕組みをつくっていくことです。それで、一番気になったのは、その仕組み、ネットワークづくりをどうするかということです。

では、次の議題3です。おじいちゃん、おばあちゃん、母子手帳、祖父母手帳の関連情報として、さいたま市の取り組みを聞きたいと思います。ではお願いします。

村上青少年教育担当係長

前回の会議のなかで、祖父母手帳とはどんなものか、という話がありましたので、ご用意したのがこちらです。さいたま市の祖父母手帳です。

1枚めくっていただき、色塗りの裏側のところに目次があります。「我が家に孫がやってきた」、から始まり「祖父母の孫育てのいいところ」、「新しい常識を知りましょう」など記載されています。また、孫の写真を貼り、祖父母が楽しんで孫育てにかかわれるように、という手帳です。

調べたら最近増えて、岐阜県では、孫育てガイドブックを出したり、石川県の「いしかわ孫育てガイド」はかなりの分量です。広島県でも出しています。

地域性といえますか、やはり足立区の場合は、孫と祖父母と同居が少ない。これをやるか、やらないかの議論は別ですが、逆に子育ての常識も変わってきています。

親が色々な情報を得たり、悩みの相談ができないなか、直接的な祖父母ではなくても、地域の年上の方がどう関わっていくかは、ここに書いてあるような内容が参考になると考えます。地域の方が一生懸命サポートしようと思っても、昔の感覚でこうだとやってしまうと、かえってマイナスになることがあります。考えているのは、その地域の祖父母手帳など、その地域のおじいちゃん、おばあちゃんがどうやって地域の子どもに関わっていけばいいのかと、参考になることを考えております。

明石議長

ありがとうございます。昔、郵便友の会がありました。

そこでは、1日だけ義理の孫とおじいちゃんの関係、「1日孫の日」をつくります。例えば、札幌のおじいちゃんとの関係のないおじいちゃん、高知の中学生、小学5年生がおじいちゃんと1日、孫の関係を築く。

そこは郵便だから、手紙で近況報告をしましょうと、それをやっておいて、1年に1回、全員が集まって孫が50名、おじいちゃん、おばあちゃんが50人とご対面で交流する。今、やっています。近所のおじさん、おばさんとか、おじいちゃん、おばあちゃんはいらなくても、1日の義理という仮の孫関係をやってみるといのは非常にいいと思います。年1回、敬老の日に、どこどこの日に会ってご対面して。

その第三者が私の言う縦と横よりも、斜めの関係をどうやって保証していくか、親子関係だけではなくて、親戚のおじさん、おばさん、おじいちゃん、おばあちゃん、斜めの関係を地域でつくってあげる。スクールガードも斜めの関係ですが、もっと愛着行動をつくらせる、足立区は下町だからできそうな感じがします。

定野教育長

昨日、おととい、お年寄りが中心の集まりがありまして、住区センターといって足立区の集会所、公民館ですが、そこに学童保育室があつて子どもたちが集まってきます。こちらの施設には悠々館があるから、お年寄りが集まってくる。集まっているだけではおもしろくないから、何かやりたいと思う。

何でもやってください、と僕は言いますが、実は、学童保育は地域のちから推進部の仕

事です、と何か縄張りみたいなものがある、手を出せないと言っていました。ただ一緒に入っているだけで色々と難しい。

村上青少年教育担当係長

会議に行くと、事務所の総務関係と悠々館のスタッフ、それから児童館、学童保育のスタッフと、みんなそれぞれ別々です。役所がこうした体制をつくっている実情があり、会議では、それぞれが主張し調整している。一緒にやるというのが難しい現状です。

定野教育長

おじいちゃん、おばあちゃんの斜めの関係についてはできると思います。そんなに難しいことではない。やりたいとおじいちゃん達は言ったわけだから。全部やるというと難しいので、やりたいところからやるべきです。

村上青少年教育担当係長

住区センターによっては、交流事業をやっているところが出てきていると思います。

明石議長

もしこのようなパンフレットをつくる場合、広島は参考になります。書いている文言とか文字が大きい。埼玉は小さい。おじいちゃん、おばあちゃんが読むので絵はたくさんあっていい。

村上青少年教育担当係長

これはホームページからPDFでダウンロードできるようになっています。ホームページでダウンロードするともっと小さいです。A4で印刷するとさらに小さく、拡大、カットしてやっとこの大きさでした。

明石議長

広島は結構活字が大きい。事務局が配慮している。もし、足立区がつくる場合は配慮してほしい。

では次、第4の検討事項です。

村上青少年教育担当係長

前回、子ども食堂ということで、イメージとしては、親を地域に巻き込むための食堂ができないか、家庭教育の新しい方法としてできないか、という検討をしていると申し上げましたが、まとまった資料はできていません。前回、東京学芸大学との連携で、六木小学校、十三中のエリアで実施している取り組みに合わせてできないか、とお話をさせていただきました。また、地域のキーマンをまず見つけられないということで、足立区の右の上あたりが六木小と十三中の地域、川に挟まれたようなエリアになります。ここは、今、東京学芸大学との貧困対策のモデル事業をやっているところです。ここで、子ども食

堂ができないか、地域の青少年委員さん2人、スポーツ推進委員1人、十三中PTA会長のOBの方3人と会って話をしてきました。

本当は、地域をゆっくり回ろうと思っていたのですが、話が盛り上がり、地域を回る時間は少なくなっていました。その中で、親をどのように地域とつながりをつくるか、また、課題を抱えた子の親が地域には関心を持たない、などの意見交換があり、皆さん非常に問題意識をお持ちでした。

それと、その学校で、例えば、六木小の土曜授業で開かれた学校づくり協議会が色々取り組みを行っていますが、その中に来ている子で、洋服の洗濯も余りしてもらえない子、上履きも洗ってもらえない子がいる、という話もありました。そのような親を引っ張り出すのは簡単ではない。だから今回、我々がやろうとしていることは、一つのきっかけづくりでいいのではと考えています。また、協力者については、力にはなれないかもしれないけれども、お金と場所なら任せろという方がいらっしゃいました。

本当に地域のために動ける方が多くいらっしゃいますので、そういった方々と協力してできるかな、という感じは持ちました。実際に青少年委員、PTA会長をやられた方は、終わった後も地域のために活動していらっしゃいます。他にも、色々とお話をする中で、非常に興味を持って、ぜひ協力したいという方もいらっしゃいますので、何とかできるという感じで今います。

六木小の周りは、まだ農地や一戸建ての家があります。農家が遺産相続の関係で、土地、農地を分けて、そこに住宅が建ったような地域もあります。あるいは、子どもが結婚すると、また家が増えるところ、六木2丁目の都営アパート、ここに住区センターも入っています。団地は1カ所ですが、東京と思えないのどかな風景が感じられるところです。ただ、あくまで六木小の周りだけですので、どのようなところで実施したらいいのかは、今後詰めていきたいと思っています。

明石議長

ありがとうございました。これを考える場合に、3点ポイントがあると思います。

1点目は、食堂で賄いをつくる人が要る。コンスタントにやらないといけないから、ボランティアだけではだめです。そうすると、学校の栄養士さんを終えた方がいらっしゃいます。その方の再雇用の場として、ボランティア的にお願いできないかが1点。要するに、人材をどうするか。

もうひとつは、フランス料理界でやっています。定年で引退したら稼ぎが無い。けれども技術は持っている。で、ボランティアをやりたい方、フランス料理長が集まるNPO法人があります。そこで、もとシェフを派遣してくれるんです。言いたいのは、食をうまく回せる管理の方が1人。

二つ目は、先ほどおっしゃったように、PTA会長を終わった方や青少年相談員というか、これが一番のキーパーソン。これが一番大事です。全体が見えている人、生活リズムがわかる。食は余り分らないけれども、全体のコーディネートができる、広報がうまい、という地域の方です。要するに人材です。二つ目は、人材をどのようにして集めるかです。

三つ目は、どのように場所を確保するか。例えば、足立区はかなり土地を持っている方がいます。その税金を区が払い、あとレンタルします、というプレイパークのような、そういうケースが多いです。広いところをレンタルしてください、ということを含めた場合に、キーワードは福祉のコンビニなど、福祉的に便利なところをつくる、というキーワードで食堂をやる。課題抱えた方たちが来るための食堂ですと。福祉でコンビニという形でメッセージを出していけるといい。

その時に、企業や協賛金を集めてくるなど、行政も多少サポートする。そういう形でモデルをつくって、中学校単位で行くと子ども食堂ができるのではと。私は、福祉コンビニだと思っています。もう一つは、留学生にやってもらうといい。外国の料理をちょっと味わうとか、一緒にご飯つくるとか。

定野教育長

料理をつくれる留学生ですね。

明石議長

そうです。この前、滋賀県の教育長が見えて1階はNPOの事務所、2階が食堂です。

これはいい提案です。いろいろ新しい提案をやっていただいて。

あと、全体的に何かございますか。以上で用意したことは終わりましたので、これで本日の議事を終わりたいと思います。

司会:事務局寺島課長

ありがとうございました。本日は先生方から孤立した親たちへの対応、地域での食堂などについて、今後の取り組みについてのヒントをいただいたと思います。ありがとうございました。では、次回につきまして、事務局広瀬からご案内をさせていただきます。

広瀬青少年課管理調整係長

お疲れさまでございました。次回の明石先生、成田先生のご都合を、確認させていただきます。7月の25日の週から8月の第2週、12日ぐらいまでの間に開催できたらと考えております。先生方、いかがでしょうか。

※確認

ありがとうございました。次回の開催日程につきましては、あらためてご報告させていただきます。

午後3時30分・会議閉会